全国科学館連携協議会関東ブロック研修会報告書

日　時　平成 31 年 3 月 13 日（水）
13：30～17：00
会　場　相模原市立博物館
JAXA 相模原キャンパス内
宇宙科学探査交流棟
出席者　17 館　28 名

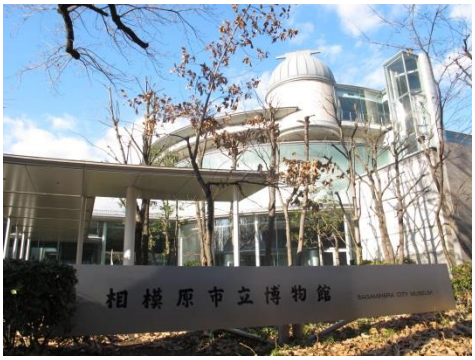
・平成 30 年度関東ブロック幹事　相模原市立博物館　武田館長から挨拶

相模原市立博物館の立地、設立の経緯・現状の課題（プラネタリウム更新）などについて。

最近のトピックスとして「はやぶさ２」タッチダウン実況パブリックビューイングの実施結果について説明（平日の早朝にかかわらず、２００人以上が来館）。

相模原市立博物館がまもなく３００万人を達成することと、この達成に関し実施する各種イベントについて案内。

（会場の様子）



（相模原市立博物館外観及びパブリックビューイングの様子）

・事務局からのお知らせ（連携協事務局　未来館　谷村氏より）

BMW による自動運転のイベントの案内、詳細は事務局まで。

マブチモーターからのモーターの支援、詳細は事務局まで。

後援名義や、入館者数記念の際には、連携協会長である毛利さんの直筆サインが入ったメッセージがもらえるのでぜひ活用を。

６月１９日 PM 未来館ホールにて連携協の総会がある。ぜひご出席を。

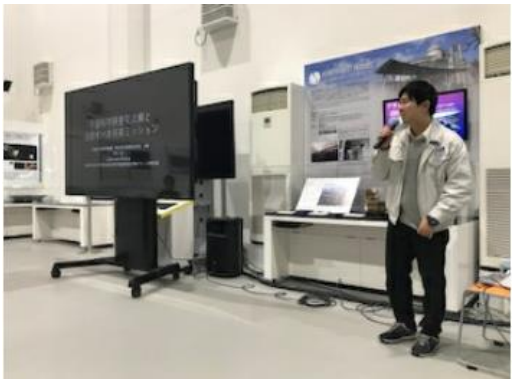
未来館で重機の企画展がありますので、来場お待ちしています。

（会場の様子）

・JAXA 視察（宇宙科学探査交流棟概要と将来話題になる宇宙科学　広報担当　佐竹氏より）

※相模原市立博物館向かいに所在する JAXA 相模原キャンパスに移動して実施。

各科学館が今後企画展等を開催するにあたり参考となるよう、資料の貸出し方法や今後注目すべきテーマを中心に講義していただいた。



（交流棟での座学の様子）

①JAXA について

２００３年に ISAS、NAL、NASDA が併合してできたため、それぞれの窓口が違うことに注意が必要。

⇒デジタルアーカイブ、展示品の貸出などにも影響

⇒宇宙科学研究所の情報、素材などは JAXA デジタルアーカイブよりも直接宇宙研のページへ（タイムラグがあるため）

⇒「はやぶさ２」などの最新情報は記者会見資料の活用を！
②宇宙科学探査交流棟について
２０１８年２月２日オープン。
交流棟の名称の理由⇒宇宙科学・探査に参入したい一般の方に情報を伝える
交流する機会をつくるため。
近くで、（ある程度）さわれる・実物の展示を心がけている。
面積が予定よりせまくなったこともあり、高さを利用した展示
相模原市立博物館と連携でスタンプラリーを実施
解説ツアーでは交流棟のほかに企業の実験などが入っていない限り、実験棟の案内も行っている（3/13 当日は予定がつかず見学不可）。
実験棟は月面探査ローバーの試験などに利用している施設⇒これからは月探査がホットな話題（南極域の探査・基地の設置）

交流棟の課題⇒解説員の不足（現在２名）。展示物の改修作業。記者会見会場としての設備調整。展示物の貸出に向けた取り組み（リストを来年度中までに作成する予定）。

はやぶさ２ミッションの現状について⇒今後の予定は現在検討中（衝突装置運用を行うのか否か、またそのあとのタッチダウンが行われるか否かなど）

「はやぶさ」と「はやぶさ２」のタッチダウンの違いについて
「はやぶさ」のタッチダウン⇒ターゲットマーカーを追ってタッチダウン⇒誤差１００ｍ
「はやぶさ２」のタッチダウン⇒落としたターゲットマーカーを基準にタッチダウン⇒ピンポイントタッチダウンの実現。

③将来ミッションについて
今後も小惑星（小天体）の探査がメインとなっていく。（水・有機物の探査）
⇒火星衛星探査機 MMX、深宇宙探査技術実証機 DESTINY+、彗星サンプルリターン探査機 CAESAR など・・・
月探査なら・・・SLIM（日本初の月着陸機）２０２０年代初頭に打ち上げ予定
天文衛星なら・・・X 線分光撮像衛星 XRISM（ASTRO-H の後継機）ISAS で２０２０年代打ち上げ予定の唯一の天文衛星

その他（情報提供）
NASA によるレクチャーについて
場所：幕張メッセ（日本地球惑星科学連合 2019 大会）

日時：5/27or5/28　日中の２～３時間程度
申込方法　WEB
言語：基本英語（JAXA 職員によるサポートあり）
講師：NASA　Brian　DAY 氏ほか
趣旨：NASA 開発の惑星探査オンラインツール（TREK）の使い方を知ってもらい、科学広報・アウトリーチ活動に役立ててもらう。
内容：高解像度ディスプレイを用いた実演、探査に関する講演及びツールの実習

興味のある方は佐竹氏まで連絡を。

その後、交流棟及び管制室等を見学。（管制室は撮影不可のため写真なし）

（交流棟内部及び敷地内見学の様子）

・情報共有タイム

相模原市立博物館に戻り、討議の時間を持った。
実施にあたっては、同じ館の人が別テーブルになるよう席替えし、5 グループに分かれ、管理運営体制や防災訓練、効果的なＰＲ方法（集客策）などをテーマに、短い時間ながら活発な情報交換、情報共有を行うことができた。

・館内視察

まもなく開催する企画展を準備中の特別展示室や収蔵庫等をメインとした館内視察（11 名）

と、プラネタリウム視察（17 名）に分かれて実施した。

（左：特別展示室、右：収蔵庫前）

（左：プラネタリウム（無人）、右：プラネタリウム内イメージ写真）

以上